

高野伸生委員 自民党の高野です。

それでは、私のほうから、まず、環境局に質疑いたします。

ヒートアイランド対策についてでございます。昨年の夏は例年に比べ暑くなかったとはいえ、大阪市の夏の生活環境は厳しいものがあることは間違いありません。

都市部が郊外に比べて暑くなるという、このヒートアイランド現象ですけれども、これまでの大阪市の取り組みについて、国の動きもあわせて教えていただきたいと思っております。

井原環境局環境施策部環境施策課長 お答えいたします。

大阪市では、都市化に伴うヒートアイランド現象による気温の上昇によりまして、市民の快適な生活環境が著しく損なわれてきたため、平成 17 年に大阪市ヒートアイランド対策推進計画を策定し、国や大阪府と連携しながらヒートアイランド対策に取り組んでまいりました。また、平成 18 年に設立されました大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムには大阪府とともに参画し、対策技術の開発・普及など、産学官民が連携し、同対策を推進してまいりました。

一方、国におきましては、関係省庁が連携し、平成 16 年にヒートアイランド対策大綱を策定し、平成 25 年には夏季のヒートアイランド現象に起因する熱ストレスによる人の健康への影響の抑制に着目した対策を新たな柱として位置づけるなど見直しを行い、ヒートアイランド対策を推進しているところでございます。

本市では昨年 3 月に、より効率的に対策を行うため、市の計画の目標や期間を府に合わせ、2025 年までに夏の熱帯夜の日数を 2000 年より 3 割減らす、夏の昼間の人の熱ストレスを軽減する適応策を推進するとするとともに、今後のヒートアイランド対策の方向性等についての基本的な方針を、大阪府市ヒートアイランド対策基本方針として取りまとめました。

これらを踏まえまして、大阪市では、大阪府とともに今後の対策についての基本的な考え方や目標、取り組み内容を取りまとめましたおおさかヒートアイランド対策推進計画を、平成 27 年 3 月末をめどに策定していく予定でございます。以上でございます。

高野伸生委員 ただいまの御答弁では、2025 年までに夏の熱帯夜の日数を 2000 年基準より 3 割減らすということであります。

3 割というのは非常にハードルの高い目標値ではないかと思うんですが、この目標達成のために、どのような施策を進めようとしているのかお伺いいたします。

井原環境局環境施策部環境施策課長 お答えいたします。

大阪市では平成 14 年度に、環境局や都市計画局――当時の都市環境局、計画調整局でござい

ますが、及び建設局などからなる全庁的な組織、大阪市ヒートアイランド対策推進連絡会を設置し、より効果的な対策の検討や実現を目指し、関係各局が連携してヒートアイランド対策等の推進を図ってきており、施策の実施に当たりましては、この連絡会を活用し対策に取り組んでまいります。

具体的には、自動車などからの人工排熱の削減、緑化の促進や水を活用する等の都市形態の改善に加えまして、建物の蓄熱を抑制するため、建物表面への太陽光パネルの設置や高反射塗装の採用、緑化の促進などによる建物の高温化抑制などの施策を実施してまいります。以上でございます。

高野伸生委員 今のお話では、ヒートアイランド対策というのは、さまざまな方法があるということですが、私は、特にこの地元の住之江区に木材産業の集積地がありますので、この地域でいろいろ今、木材の利用促進について研究されていることがあるのでお伺いしたいと思います。

この建築物の表面を木材で覆うなど、熱をため込まない木材を建材に活用することが、熱帯夜の削減に有効だと聞いております。木材の使用というのは、単にヒートアイランド対策としての効果だけではなくに、国内木材の消費促進にもつながり、また、林業の健全な発展を図って森林の適正な整備、例えば、間伐材の整備とか、あるいは木材の自給率の向上に寄与するなど、国内産業の底上げにもつながる副次的な効果もあろうかと思っております。

大阪市としては、今後、こういったことに対してどのように取り組もうとされているのかお伺いたします。

井原環境局環境施策部環境施策課長 お答えいたします。

大阪市といたしましても、ヒートアイランド対策の一つとして、建築物における木材の利用促進は有効なものと考えております。

平成 22 年に、ヒートアイランド対策として木材製品の活用を推進するため、研究機関や企業及び大阪府市の産学官が連携した国産材を活用したヒートアイランド対策協議会を設立し、西区における大阪木材会館で外装の木質化による蓄熱抑制の実証実験を行うなど、技術の普及を図ってまいりました。また、本市といたしましても、大阪木材会館を建物の外装の木質化の先行事例としてホームページで紹介するなど、木材の利用促進の普及啓発を行ってまいりました。

また、平成 24 年からは、市立全小学校で使用している副読本「おおさか環境科」の中で、森林の働きや生活と森林とのかかわりを取り上げ、次代を担う人材に森林の大切さを伝えているところでございます。

現在、策定中のおおさかヒートアイランド対策推進計画におきましては、建物に熱をためない方策として、外装の木質化等の取り組みの促進を位置づけており、今後も国産材を活用した

ヒートアイランド対策協議会の活用等により建物の高温化抑制を進めるなど、環境教育もあわせながら、ヒートアイランド対策を引き続き推進してまいります。以上でございます。

高野伸生委員 これから大事なことは、この木材利用をどう促進させていくかということなんですけども、一番の課題はやっぱりコストであろうかと思います。それと、耐震性、耐久性あるいは防火性、耐火性、そういった問題をクリアしていかなきゃなりません。かなり最近の木材の加工処理を見てますと、こういった問題に対して技術的に非常にすぐれてきて、例えば、横浜市ではコミュニティーホールの木材をいわゆる木装化した建物が今つくられております。それと、横浜市の港南区役所と神奈川区役所、これ今、区役所の建て替え工事をこれからやるらしいんですけども、1階の区民広場に木質化した広場をつくると。

ヒートアイランドだけじゃなしに、いわゆる木材というのは、いろんな意味で子供たちの教育面、人間に対する自然の安らぎ、またメンタリックなものにとって、非常にいいものだと思います。

こういった普及促進を、とりあえずは公共建築物に利用して、それを見た各企業なり各事業者が、いろんな建物でこの木質化をできないかという取り組みを、ぜひ大阪市としてもこの国産材の活用をヒートアイランド対策協議会で御協議していただくようお願いを申し上げます、この質疑を終わります。